

赤十字国際ニュース

2021年 第14号 2021年4月21日
(通巻 第1424号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3437-7509

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <https://www.jrc.or.jp/>

■記念すべき“100回目”「昭憲皇太后基金」

“平時に備える”という発想が広く普及していなかった時代に、赤十字が世界中で実施する開発協力活動のために創設された「昭憲皇太后基金」。

今年は記念すべき100回目の配分を迎え、同基金合同管理委員会にて記念動画(約2分半:英語)が作成されました。配分額は、1921年(大正10年)の第1回から今回(第100回)までで、累計17億円以上にのびます。



配分100回目記念動画

(<https://media.ifrc.org/ifrc/2021/04/09/empress-shoken-fund-100th-distribution-announcement/>)

昭憲皇太后基金
支援事業の様子



学校の緊急時・災害時体制強化
(メキシコ赤十字社、2019年配分)



ジェンダーや障がいなどに配慮した
防災事業等の推進
(バヌアツ赤十字社、2019年配分)

■今日の開発援助の先駆け 世界最古の国際人道基金

「昭憲皇太后基金」は1912年（明治45年）にワシントンで第9回赤十字国際会議が開催された際、赤十字の平時の活動を奨励するために昭憲皇太后（明治天皇の皇后）が国際赤十字にご寄付された10万円（現在の価値で3億5,000万円に相当）を基に創設されました。

世界で武力衝突が起こり、のちに第一次世界大戦が起こるこの時代において、多くの赤十字社は戦時救護の対応に追われていました。そんな中、保健衛生の改善や、地震、台風、火災、噴火等の災害への備えといった平時の活動を行うための国際基金の創設は画期的なことであり、世界の国際開発援助の先駆けとなりました。

同基金は、皇室をはじめとする日本からの寄付金によって支えられており、国際赤十字の中に設けられた合同管理委員会によって運営され、原資を切り崩すことなく、そこから得られる利子が世界の赤十字社の活動に配分されます。

毎年、昭憲皇太后のご命日にあたる4月11日に配分先が発表されています。



昭憲皇太后
（出典「日本から世界へ 思いやりの100年」）

■2021年の配分先が決定 —16カ国の活動に総額約5,591万円—

同基金合同管理委員会は、事業目的、支援ニーズ、事業の成果見込み、過去の支援実績、地域バランス等を考慮した結果、今年度の基金の配分先を以下の16カ国での活動に決定しました。総額は約5,591万円（475,997スイスフラン）です。

※ すべて令和3年4月5日レート（1スイスフラン=117.46円）により換算。

◆◆◆◆ 第100回 昭憲皇太后基金支援事業の概要 ◆◆◆◆

1. ケニア赤十字社（アフリカ）：約387万円（32,952スイスフラン）
若年層へのデジタルボランティア活動の推進
若年層がオンラインで活用できるボランティア活動のプラットフォームを導入します。
2. マラウイ赤十字社（アフリカ）：約352万円（29,965スイスフラン）
災害対応体制の構築
発災後すぐに対応できる訓練された災害対応チームをマラウイ赤十字社全支部に配置します。
3. 南スーダン赤十字社（アフリカ）：約352万円（30,000スイスフラン）
植林による環境保護活動
果樹の植栽によって、脆弱な地域コミュニティでの人々の栄養状態と気候変動による影響を改善します。
4. ベナン赤十字社（アフリカ）：約352万円（30,000スイスフラン）
女性のリプロダクティブ・ヘルスと自主性の支援
女性の収入創出活動を強化するとともに、自分や家族の健康に関する情報へのアクセスを増やします。
5. バハマ赤十字社（南アメリカ）：約352万円（30,000スイスフラン）
気候変動に強いコミュニティの開発
災害リスクの軽減と気候変動への耐性を高めるため、5つの島の支部職員とボランティアのネットワークを拡大し、能力を強化します。

6. コスタリカ赤十字社（南アメリカ）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
先住民コミュニティの安全な生活環境の構築
遠隔地にある先住民コミュニティにおいて、緊急事態や災害に適切に対処できる環境の構築を目指します。
7. ニカラグア赤十字社（南アメリカ）：約 346 万円（29,494 スイスフラン）
高齢者への新型コロナウイルス感染症対策支援
3つの高齢者養護施設で、医療支援・感染症の予防・メンタルヘルスを推進します。
8. アルゼンチン赤十字社（南アメリカ）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
組織強化のためのシステム構築
アルゼンチン赤十字社内での意思決定の基礎となるデータを収集・検証するモジュールを開発し、65支部に導入して活用します。
9. フィリピン赤十字社（アジア大洋州）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
水・衛生環境の改善
給水・排水・トイレ・廃棄物処理等、衛生環境改善に関するガイドラインを作成し、地域コミュニティに配布します。
10. パキスタン赤新月社（アジア大洋州）：約 302 万円（25,678 スイスフラン）
血液製剤の保管機能の強化と供給システムの自動化
地域の血液センターにおける新鮮冷凍血漿の保管機能を向上させ、血液製剤の供給システムを自動化し、2021年「世界献血デー」を開催して自発的な献血の意識を高めます。
11. ベトナム赤十字社（アジア大洋州）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
プロジェクト管理と社会福祉に関する能力強化
提案書の作成からプロジェクト管理、社会福祉に関する研修をベトナム赤十字社の職員に提供します。
12. 東ティモール赤十字社（アジア大洋州）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
リプロダクティブ・ヘルスの知識向上
性と生殖に関する健康について、若年層の知識を向上させます。
13. エストニア赤十字社（ヨーロッパ・中央アジア）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
ボランティア研修の体系化による能力強化
データベースを構築してボランティアの募集・研修・確保を行い、エストニア赤十字社の4つの地域の能力を向上させます。
14. ジョージア赤十字社（ヨーロッパ・中央アジア）：約 331 万円（28,208 スイスフラン）
健康増進への継続的な取り組み
衛生的な習慣と予防接種の重要性を普及し、予防接種を推進することにより、新型コロナウイルス感染症の影響を減少させます。
15. ルーマニア赤十字社（ヨーロッパ・中央アジア）：約 349 万円（29,700 スイスフラン）
児童養護施設にいる若者の脆弱性の解消
心理社会的手法を用いて、児童養護施設にいる60人のティーンエイジャーを支援します。
16. イラン赤新月社（中東・北アフリカ）：約 352 万円（30,000 スイスフラン）
ビジネスアプローチによる地域の能力強化
地方の商工施設と協働した小規模なビジネス支援により、周辺地域住民が収入を得られるようにします。

これからも昭憲皇太后基金は、国際赤十字運動全体に利益をもたらす知見を生み出す可能性のある、新しくイノベーティブな活動を引き続き奨励していきます。